

富良野看護専門学校 広報誌

看 心 い ら の 第 6 (1 3) 号

発行日 平成 2 3 年 1 2 月 2 2 日

発行者 富良野看護専門学校

○ 平成 2 3 年を振り返って ~教育活動概要報告~ 学校長 丸 昇

文字通り「先生も忙しく学校内外を走り回る」師走を迎えました。3月に15期生の卒業生全員が国家試験に合格して年度を締めくくり、新年度がスタートしましたが、早くも冬季休業を来週に控え、平成23年も僅かとなりました。4月には18期生33名が入学、看護師養成への期待が一層高まる中、難関を突破した新入生は、未知の経験や様々な課題を克服しながら本校教育に順応する日々、想像を超える戸惑いや驚き等、看護師への道は大いなる挑戦かつ容易ならざる目標であることも実感したことでしょう。

自前の設置病院を持たない本校は、多くの病院、関係施設等の特段のご協力当初計画通りに臨地実習を展開させて頂き、特に2,3年生は厳しい試練の実践に励みました。

旭川地区看護学校親睦体育大会や学校祭等の諸行事での学生の奮闘振りは、「忙中閑」、「少数精鋭」の全力投球で、本校のよき伝統が息づいていることを感じさせました。

富良野市立の看護専門学校として、地域、市民の期待に応え、より多くの優秀な看護師を地元・圏域の病院に着実に輩出することが何よりの目標です。本年度は全教員が科目・領域の講義や実習の指導と評価の充実を図る実践研究に取り組み、徐々にその成果がまとまりつつあります。新しい年が確かな前進の歩みとなるよう全校一丸努力します。

H23年度「ことぶき大学交流会」報告1 (概要や感想・まとめを随時連載します)

今年も1.世代を超えた対象の理解、対人関係、礼節を学ぶ2.富良野地区の高齢者との交流を目的に、9月14日本校にことぶき大学生60余名をお招きして行われました。

本校の1,2年生64名とことぶき大学生60余名の皆様が10グループに分かれ、「各世代の流行、趣味や努力、昔の体験、結婚(恋愛)や家庭生活、好きなタイプや理想の人」などについて、約2時間にわたって和やかな雰囲気の中で活発に交歓しました。

ことぶき大学生からは、「どうして看護師を目指すの。看護師は素敵な仕事」「結婚相手は運命と思った」「子どもは最低3人産むべき」「看護はデータでなく患者との関わりで五感を大切に」「嫁・舅関係は難しいが一人で暮らす自由も辛い」「物の少ない昔の遊びと富良野の様子」など、どのグループも看護学生の用意した質問に熱心に親身に答えていただき、大いに盛り上がりました。「入院した時、3人の看護学生にとっても優しくお世話いただき、夫も喜び感謝している。」「患者の望むことは話しやすい環境で安心できること。できるだけ多く富良野に残ってほしい。」などの人生の大先輩の方々からの身に沁みる現実的なお話から、学生たちは日常の勉学にはない多くことを学んだようです。

・・・ SCHEDULE ・・・ 12 / 16 ~ ' 12 1 / 30 の行事・動向 (含終了)

12 / 16 (金) 3年生統合実習終了

12 / 16 (金) 富良野看護専門学校創立記念日

12 / 22 (金) 旧カリキュラム成人 実習終了

12 / 26 (火) 冬期休業 (~ 1 / 22 日 28日間)

1 / 17 (火) ~ 18 (水) 富良野看護専門学校入学試験

1 / 24 (火) 始業 (1 / 23 (月) は創立記念日 (12 / 16) の振替休業)

1 / 30 (月) 2年生成人看護学 実習開始 (~ 2 / 17 金)

耳よりヘルシー HEALTHY トピックス

冬の生活の用心 ~ 「冷え込み・雪目」対策 ~ 体の冷えは手足やおなか等の血液循環を低下させ、細胞の代謝活動も低下し様々な障害が起こり得る。入浴もよいが、内部から体を温める方法の一つとして漢方で生薬のショウガの作用が効果的だ。

雪のまぶしさに目が痛み、涙が止まらなくなったりするのを俗に「雪目」と言い、太陽光の紫外線が目の角膜を痛め炎症が起こる。スキーや登山に限らずサングラスによる防止が大切。北国を健康で生きよう！ (出典：道新「生きるしくみ」當瀬規嗣)

++++ あ・ん・て・な ANTENNA +++++

看護師の公的役割論議と需給見通し・・・「我が国最大 150 万人のマンパワー」

医療の高度化、チーム医療推進等を背景に厚生労働省は、「医師の包括的指示のもとに特定行為を行うことができる『特定看護師制度』(仮称)創設」の議論をチーム医療推進会議等で活発化しているが、日本医師会をはじめ関係各団体は賛否両論、時期尚早であると慎重な検討を求め、なお多くの時間が必要な情勢だ。一方、H22年12月の「第7次看護職員需給見通しに関する検討会報告書」では、H27年には全国で150万人の看護師が必要となり、H24年5万2千人、H27年1万5千人の不足が見込まれる。

このような中、看護師の地位や重要性は、今後も一定の高まりが期待され、進路は「追い風」であると言える。(数字は「常勤換算」の概数。参考「週刊保健衛生ニュース」他)

ささやき S & T ・・・ 学生の、教員の、みんなの声

S: 初の3週間という長期実習を終えました。実習では初めて患者様を受け持たせていただき、たくさんのことを学びました。この学びがこれからに生かせるよう頑張りたいです(1年)

S: もう少しで冬休みでとても待ちどおしいですね。2年生は先日、沐浴の演習がありました。本物の新生児を湯に入れることを考えると不安になりますが、少しずつ練習し、技術を習得したいと思います。(2年 後藤 麻衣奈)

T: 特に大きな事故もなく、学生にとっても教員にとっても過酷な1年が終わろうとしています。安堵だ。がしかし、私の老体は年々悲鳴をあげてます。若返りたい今日この頃です。(教員 能登 千種)